

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1992000016 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人にんじんの会 | | |
| 事業所名 | にんじんホーム・上野原 | | |
| 所在地 | 山梨県上野原市上野原522番地 | | |
| 自己評価作成日 | | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------|--|--|
| 評価機関名 | 山梨県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 甲府市北新1-2-12 | | |
| 訪問調査日 | 平成28年9月29日(木) | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様がその人らしく暮らして頂ける様に、職員一同心がけています。入居者様の人格を尊重し、有する能力を最大限に活かし、維持している様に支援しています。また、利用者様やご家族様から伺った生活歴等を元に個別ケアを行う事でより楽しみを持った生活を送って頂ける様にしています。地域に根差した開かれた施設を目指し、毎月認知症カフェ、8月には夏祭りを開催しています。また地域の大学との交流もありアニマルサイエンスを開催し利用者様に楽しんで頂いています。当事業所はグループホームの他に訪問看護・通所介護・小規模多機能型居宅介護などの事業を併設しており、他事業とも連携を密に取れるのが強みです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、旧来の住宅地の中にある2階建ての建物で、2階部分にグループホームの2ユニットと小規模多機能型居宅支援事業所の宿泊室がある。1階にはデイサービス、訪問看護、訪問介護、居宅支援、小規模多機能型が併設され、相互にしっかりと連携・協力体制が築かれている。階下の小規模多機能型居宅介護事業所があり、昼食前の体操をはじめプログラムの一部を共有しており双方の利用者のより自然な交流を生んでいる。法人は多摩地域を中心に8事業所で介護・福祉事業を展開しており、より質の高いサービスの提供を目指し、人材教育にも力をいれている。職員はそれぞれ目標を持って日々の介護にあたり、利用者が個性豊かな生活を送ってほしいと様々な支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームにんじん・上野原

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|--------------------|---|--|--|---|-------------------|
| | | ユニット名(ピーチ) | ユニット名(柚子) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人及び事業所の理念、目標をフロアに掲げ、管理者・職員共々その理念等を共有、実践している。 | 法人及び事業所の理念、目標をフロアに掲げ、管理者・職員共々その理念等を共有、実践している。 | 法人理念を掲示し共有している。また理念を介護現場で現実化できるよう、6か月ごとの目標を作りミーティング時には職員間で確認し合っている。法人本部主催の新人研修や研修会でも学び、職員間の意思統一を図っている。利用者と過ごす日々の生活の中で、折に触れて、理念に立ち戻り支援に当たっている。 | |
| 2 | (2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 夏祭りや認知症カフェを通して、地域の方々とも交流を図っている。また地域の自治会に加入しており、祭りへの招待を受け、参加している。地域の中学・高校生がコンサート開催やイベントにボランティアとして参加する等の交流がある。 | 夏祭りや認知症カフェを通して、地域の方々とも交流を図っている。また地域の自治会に加入しており、祭りへの招待を受け、参加している。地域の中学・高校生がコンサート開催やイベントにボランティアとして参加する等の交流がある。 | 2つの地域に接しているため、2つの自治会に加入している。認知症カフェ、地域の夏祭りなど地域と積極的に交流している。フラダンス、大正琴など地域のボランティアの来訪も多く、月2回の傾聴ボランティアも加えると週に3回ほどの交流の機会がある。 | |
| 3 | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症カフェを毎月開催している。地域の回覧板等を利用して告知を行っている。また地域で開催している長寿会へも参加して介護保険制度の説明や認知症予防体操等を行っている。 | 認知症カフェを毎月開催している。地域の回覧板等を利用して告知を行っている。また地域で開催している長寿会へも参加して介護保険制度の説明や認知症予防体操等を行っている。 | | |
| 4 | (3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は2ヶ月に1回開催、活動の報告を行い、入居者様やご家族、地域の方々や行政の方とも意見交換して、サービスの向上に繋げている。 | 運営推進会議は2ヶ月に1回開催、活動の報告を行い、入居者様やご家族、地域の方々や行政の方とも意見交換して、サービスの向上に繋げている。 | 運営推進会議は、2か月に1回開催している。全家族に開催通知を出し、欠席した家族には議事録を送付している。現況の説明、報告のあと、会議出席者からの質問・意見・要望を聞いている。災害時の避難方法などの意見が出され、避難時移動補助具(おんぶラック)を購入するなど意見を反映している。 | |
| 5 | (4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 上野原市が運営する地域ケア会議や認知症ネットワークへ参加し、地域と協力関係を構築している。市から入居相談を受ける等、協力関係を構築している。 | 上野原市が運営する地域ケア会議や認知症ネットワークへ参加し、地域と協力関係を構築している。市から入居相談を受ける等、協力関係を構築している。 | 市主催の地域ケア会議は月1回開かれているが、主任、管理者、リーダーのいずれかが出席し、市・地域関係者との関係性を深めるよう努めている。認知症カフェに市担当者に来てもらえるよう働きかけている。また、市からも入居の相談があるなど良好な協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 「身体拘束をしないケアの実践」については職員も十分理解し、積極的に取り組んでいる。危険が伴う事が予測される行動については観測して対応を考えている。また必要に応じてご家族や医療関係者と検討して安定した生活が送れる様に支援する。 | 「身体拘束をしないケアの実践」については職員も十分理解し、積極的に取り組んでいる。危険が伴う事が予測される行動については観測して対応を考えている。また必要に応じてご家族や医療関係者と検討して安定した生活が送れる様に支援する。 | 法人本部の研修・教育訓練など年間に2~3回あり全職員は身体拘束の対象となる具体的な行為を正しく理解している。入居時、夜間はベッド柵の必要だった方でも要因を探り適切なケアを行うことでベッド柵は不要となった。スピーチロックについても常に声かけには注意し、職員間で意識を高めている。 | |
| 7 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 当法人が作成したマニュアルの活用や、上野原市高齢者虐待対応支援マニュアルを元に、虐待の防止に取り組んでいる。 | 当法人が作成したマニュアルの活用や、上野原市高齢者虐待対応支援マニュアルを元に、虐待の防止に取り組んでいる。 | | |
| 8 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護についての理解度は向上してきているが、まだ不足している部分も多いと感じている。勉強会を実施し、その主旨などについての理解を深め、共有を図る。 | 権利擁護についての理解度は向上してきているが、まだ不足している部分も多いと感じている。勉強会を実施し、その主旨などについての理解を深め、共有を図る。 | | |
| 9 | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約については管理者や計画作成担当者が、十分に説明を行い、疑問などがあればその場で説明し理解・納得を得ている。 | 契約については管理者や計画作成担当者が、十分に説明を行い、疑問などがあればその場で説明し理解・納得を得ている。 | | |

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームにんじん・上野原

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|--|--|-------------------|
| | | | ユニット名(ピーチ) | ユニット名(柚子) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 2ヶ月に1回運営推進会議を実施。またその後には家族会を開催し直接意見を聞く機会を設けている。ご家族の要望には出来るだけ個別に対応して利用者様のQOL向上に繋げている。 | 2ヶ月に1回運営推進会議を実施。またその後には家族会を開催し直接意見を聞く機会を設けている。ご家族の要望には出来るだけ個別に対応して利用者様のQOL向上に繋げている。 | 2か月に1回の家族会や運営推進会議の場で家族の意見を聞いている。また、日常の面会の際に利用者の様子を伝えるなどして家族が話しやすい雰囲気づくりに努めている。事業所の夏祭りでは外部の来客が多く「家族ごとでゆっくり話したい」との要望があり、開始時間を工夫し家族意見を反映した。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月事業所内ミーティングを開催して職員の意見を聞く機会を設けている。その中で法人全体の問題として取り上げる課題等はリーダー会議や事業所長会議に上げ、反映させている。 | 毎月事業所内ミーティングを開催して職員の意見を聞く機会を設けている。その中で法人全体の問題として取り上げる課題等はリーダー会議や事業所長会議に上げ、反映させている。 | 毎月のミーティングで職員の意見を聞いている。その他、月2回のヒヤリング、入職後3か月の面談、衛生委員会メンバーとの話し合いなどを通してメンタルな面にも配慮している。ケア方法などの提案や外出行事に関する意見・要望などもその都度聞いている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の就業に関しては法人として規定がある。年に数回は管理者と面談する機会があり、その中で各職員からの意見を聞き、安定して就労出来る様に努めている。 | 職員の就業に関しては法人として規定がある。年に数回は管理者と面談する機会があり、その中で各職員からの意見を聞き、安定して就労出来る様に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人職員には知識・技能が習得できる様に計画的な教育を実施している。法人内で定期的な研修会や勉強会の開催を行っている。 | 新人職員には知識・技能が習得できる様に計画的な教育を実施している。法人内で定期的な研修会や勉強会の開催を行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域の同業者との会議や勉強会にも積極的に参加、サービスの質の向上に努めている。また、他の福祉施設で開催しているアニマルセラピーや芝桜祭り等へも参加している。 | 地域の同業者との会議や勉強会にも積極的に参加、サービスの質の向上に努めている。また、他の福祉施設で開催しているアニマルセラピーや芝桜祭り等へも参加している。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の契約の段階でご本人のみならず、ご家族様からも要望をお聞きし、安心して暮らせる関係づくりに努めている。また、管理者・計画作成担当者・ユニットリーダー・居室担当職員が中心にコミュニケーションを積極的に行っている。 | 入居前の契約の段階でご本人のみならず、ご家族様からも要望をお聞きし、安心して暮らせる関係づくりに努めている。また、管理者・計画作成担当者・ユニットリーダー・居室担当職員が中心にコミュニケーションを積極的に行っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居に関する受付や申し込みの段階でご家族様からも要望をお聞きし、関係づくりに努めている。また、居室担当職員を紹介するなど、安心して頂ける様に努めている。 | 入居に関する受付や申し込みの段階でご家族様からも要望をお聞きし、関係づくりに努めている。また、居室担当職員を紹介するなど、安心して頂ける様に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 受付や申し込みの段階で、要望されている支援の優先順位を話し合うなどしている。他のサービスを含めてトータルな対応に努めている。 | 受付や申し込みの段階で、要望されている支援の優先順位を話し合うなどしている。他のサービスを含めてトータルな対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者様のできることはして頂く等、有する能力の維持向上に努めるとともに、職員と一緒に家事動作を行うなどしている。また居室担当を中心にその人らしく生活できる様にケアを実践して関係を築いている。 | 入居者様のできることはして頂く等、有する能力の維持向上に努めるとともに、職員と一緒に家事動作を行うなどしている。また居室担当を中心にその人らしく生活できる様にケアを実践して関係を築いている。 | | |

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームにんじん・上野原

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|--|-------------------|
| | | | ユニット名(ピーチ) | ユニット名(柚子) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族が来所しやすい様、イベントや日常の様子を定期的にご連絡を行っている。来所時に日常の様子を伝えケア方法を一緒に検討する場を設けている。 | ご家族が来所しやすい様、イベントや日常の様子を定期的にご連絡を行っている。来所時に日常の様子を伝えケア方法を一緒に検討する場を設けている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの方々にも施設に来て頂くよう、イベント等を通じ広報するほか、可能な限りの外出支援に努めている。 デイサービスや小規模多機能等を併用している為、子供時代の知人等と交流する機会がある。 | 馴染みの方々にも施設に来て頂くよう、イベント等を通じ広報するほか、可能な限りの外出支援に努めている。 デイサービスや小規模多機能等を併用している為、子供時代の知人等と交流する機会がある。 | 入居前に自宅訪問を行い、本人の生活背景を把握し支援につなげるよう努めている。併設のデイサービスや小規模多機能型の通所の方の中には馴染みの友人・知人もいるため日常的に交流している。家族の協力で馴染みの美容院に行ったり、知人の美容師が来訪しボランティアでカットをしてもらっている利用者もいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様の性格や行動パターン等を把握し、入居者様同士の関係にも目を配っている。また複数の入居者様と共に一緒に作業をする等、入居者様がお互いに関わり合える環境整備に努めている。 | 入居者様の性格や行動パターン等を把握し、入居者様同士の関係にも目を配っている。また複数の入居者様と共に一緒に作業をする等、入居者様がお互いに関わり合える環境整備に努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居される等して契約が終了した元入居者様に対しても、必要に応じてフォローしている。 | 退居される等して契約が終了した元入居者様に対しても、必要に応じてフォローしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常のケアの中で、積極的にコミュニケーションをとり入居者様の意向を把握するよう努めている。 ご本人の意向を聞き取るのが難しい場合は、ご家族様とよく話し合いを行い、入居者本位のケアが提供出来る様になっている。 | 日常のケアの中で、積極的にコミュニケーションをとり入居者様の意向を把握するよう努めている。 ご本人の意向を聞き取るのが難しい場合は、ご家族様とよく話し合いを行い、入居者本位のケアが提供出来る様になっている。 | 職員は利用者との日常の会話の中から、思いや意向を汲み取るよう努めている。入浴時や利用者同士の会話などから汲み取ったり、地域の「すごろく」を楽しみながら昔の話をしてもらう場面を作るなど工夫している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居者様の生活歴や趣味・嗜好などの把握に努め、コミュニケーションの中でその方の意向を尊重したケアを実施している。また居室には馴染みの家具や写真、アルバムなどを置いて頂いている。 | 入居者様の生活歴や趣味・嗜好などの把握に努め、コミュニケーションの中でその方の意向を尊重したケアを実施している。また居室には馴染みの家具や写真、アルバムなどを置いて頂いている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個人各自が、自由に過ごして頂く時間を設けている他、デイサービス等の利用者様と一緒に体操なども実施し、心身状態や有する能力の現状把握に努めている。 | 個人各自が、自由に過ごして頂く時間を設けている他、デイサービス等の利用者様と一緒に体操なども実施し、心身状態や有する能力の現状把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月スタッフでのミーティングを開催し、入居者様の現状について情報共有を図ると共に、必要に応じて本人様やご家族様とも話し合っている。その結果現状に即した介護計画を作っている。 | 毎月スタッフでのミーティングを開催し、入居者様の現状について情報共有を図ると共に、必要に応じて本人様やご家族様とも話し合っている。その結果現状に即した介護計画を作っている。 | 入居前の訪問面接や医療情報提供書などを考慮し、本人家族の意向を反映した介護計画書を作成する。1か月後、全職員でモニタリング会議を行い、主治医の意見、家族の意見も入れ現状に即した介護計画を作成している。見直しは6か月毎に行うが状態の変化があれば柔軟に対応している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケア記録表を作成し日々の様子を記入、観察し、職員間で情報共有を図っている。 | ケア記録表を作成し日々の様子を記入、観察し、職員間で情報共有を図っている。 | | |

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームにんじん・上野原

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|---|--|
| | | | ユニット名(ピーチ) | ユニット名(柚子) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人の意思を尊重し、併設している通所介護事業所にも入居者様をお連れし体操やゲームをする等、入居者様本位のケアを心がけている。 | ご本人の意思を尊重し、併設している通所介護事業所にも入居者様をお連れし体操やゲームをする等、入居者様本位のケアを心がけている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 可能な限り地域の行事にも積極的に参加、有する能力を維持できる様支援している。 | 可能な限り地域の行事にも積極的に参加、有する能力を維持できる様支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者様一人ひとりのかかりつけ医とも連携を取り、適切な医療が受けられるよう支援している。 | 入居者様一人ひとりのかかりつけ医とも連携を取り、適切な医療が受けられるよう支援している。 | 本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。入居前からのかかりつけ医での受診は、家族が対応しているが都合のつかない場合は併設の訪問介護事業所が対応している。いずれの場合も健康状況を書面で渡している。他の利用者は月2回往診医による診療を受けている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎朝看護師を交えたミーティングを実施、入居者様の体調管理に努めると共に、日中も利用者様に特変などが生じた場合、看護師と共にケアに当たっている。 | 毎朝看護師を交えたミーティングを実施、入居者様の体調管理に努めると共に、日中も利用者様に特変などが生じた場合、看護師と共にケアに当たっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入退院時のみならず、途中でもお見舞いに行くなどしながら、病院関係者とも情報交換を行っている。協力病院とも、他事業所で関連がある為、常日頃より関係作りを行っている。 | 入退院時のみならず、途中でもお見舞いに行くなどしながら、病院関係者とも情報交換を行っている。協力病院とも、他事業所で関連がある為、常日頃より関係作りを行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時に看取り介護の説明を行っている。利用者様の状態により医療(看護師や担当医)と連携をとりご家族へ説明を行い、ご本人やご家族の意向に沿った終末期の対応を行っている。(1件の看取り介護を実施) | 入所時に看取り介護の説明を行っている。利用者様の状態により医療(看護師や担当医)と連携をとりご家族へ説明を行い、ご本人やご家族の意向に沿った終末期の対応を行っている。(2件の看取り介護を実施) | 入居時に事業所としての指針を説明し、家族の意思確認を行っている。その後、状況変化に応じて繰り返し話し合いを重ね家族の考え方、意向を大切に、医療関係等と連携を図り、随時意思確認をしながら取り組んでいる。すでに3件の看取り支援を行った。職員には看取りについてのアンケートを行い、職員の精神的な負担などにも配慮している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時の対応マニュアルは整備されているが、まだ経験の浅い職員も居る。経験の浅い職員をはじめ、全職員を対象にした訓練・勉強会を早急を実施したい。 | 急変時の対応マニュアルは整備されているが、まだ経験の浅い職員も居る。経験の浅い職員をはじめ、全職員を対象にした訓練・勉強会を早急を実施したい。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に火災や地震等を想定した避難訓練を実施している。 | 定期的に火災や地震等を想定した避難訓練を実施している。 | 年2回、地震、火災を想定した訓練を行い、避難経路の確認、避難方法、初期消火の方法など指導を受けている。9月には地域防災訓練にも参加している。職員連絡網を使い夜間の通報訓練も行った。避難の際、利用者をお預かりすることを想定し「おんぶらっく」を用意した。 | 災害が起こった時に職員が冷静に行動し、利用者・職員とも慌てず速やかに避難できる方法を身につけることが大切で、全職員が訓練を体験できるような工夫を期待したい。また、地域に向けて災害時の協力を得られるような取り組みを期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 常に入居者様の声に耳を傾け、丁寧な声掛けや言葉使いをするよう心がけている。写真の掲載等の利用は了承を得て行っている。 | 常に入居者様の声に耳を傾け、丁寧な声掛けや言葉使いをするよう心がけている。写真の掲載等の利用は了承を得て行っている。 | 職員は、利用者一人ひとりの自尊心とプライバシーに配慮した対応に努めている。入浴は希望があれば同性介護とし「キャロット便り」への写真掲載も承諾を得ている。個人情報に関する書類管理は職員スペースに保管し記録する際や引継ぎの時も周囲に気を配っている。 | |

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームにんじん・上野原

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|--|-------------------|
| | | | ユニット名(ピーチ) | ユニット名(柚子) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者様の様子に目を配り、要望を傾聴するようにしている。また意思表示が困難な利用者様は表情から思いをくみ取る様にしている。 | 入居者様の様子に目を配り、要望を傾聴するようにしている。また意思表示が困難な利用者様は表情から思いをくみ取る様にしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日のスケジュールは大方決まっているが、基本的には入居者様のペースを尊重している。 | 一日のスケジュールは大方決まっているが、基本的には入居者様のペースを尊重している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節に合った洋服を着られるよう支援すると共に、季節の変わり目にはその時季にあった洋服等を用意して頂けるよう家族にも話している。 | 季節に合った洋服を着られるよう支援すると共に、季節の変わり目にはその時季にあった洋服等を用意して頂けるよう家族にも話している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 毎月1回はイベント食、おやつ作りを行っている。食事で季節感を感じて頂ける様に支援している。また準備や片付け等も出来る限り一緒に行っている。 | 毎月1回はイベント食、おやつ作りを行っている。食事で季節感を感じて頂ける様に支援している。また準備や片付け等も出来る限り一緒に行っている。 | 食事係の職員3人が朝食・夕食の献立を作成、法人本部の管理栄養士がチェックしている。昼食は業者委託だが朝夕は事業所で調理をし、職員と一緒に利用者も野菜の下ごしらえ、配膳、片づけなどを行っている。利用者の希望があれば個別なメニューを用意したり、外食をするなど食事を楽しむことのできる支援を行っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量、水分の確保については日々記録をとっている。水分については毎食事時のみならず、10時、15時にお茶を提供している。習慣や好みに応じた支援を実施している。 | 食事量、水分の確保については日々記録をとっている。水分については毎食事時のみならず、10時、15時にお茶を提供している。習慣や好みに応じた支援を実施している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアもできる方には見守りや声掛けで行って頂いている。介助が必要な方にはその人に応じた介助を施している。 | 口腔ケアもできる方には見守りや声掛けで行って頂いている。介助が必要な方にはその人に応じた介助を施している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 各人のADLに合わせてオムツやリハパン等を使い分けている。またアセスメントを行い、排泄時間やパターンを把握してトイレ誘導を行い自立できる様に支援している。 | 各人のADLに合わせてオムツやリハパン等を使い分けている。またアセスメントを行い、排泄時間やパターンを把握してトイレ誘導を行い自立できる様に支援している。 | 排泄チェック表の記録で利用者全員の排泄パターンを把握し、その人に合わせた支援を行っている。根気よくトイレ誘導することにより、尿カテーテルやオムツを外すことができた利用者もいる。またきめ細かくアセスメントを行いパットのサイズを変えるなど一人ひとりに合わせた排泄援助を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 入居者様にあった運動を取り入れたり、こまめな水分摂取を促し便秘の予防に努めている。便秘などが起こってしまった際には、看護師とも協力し下剤を服用して頂いたりしている。また排便の有無も毎日チェック、記録している。 | 入居者様にあった運動を取り入れたり、こまめな水分摂取を促し便秘の予防に努めている。便秘などが起こってしまった際には、看護師とも協力し下剤を服用して頂いたりしている。また排便の有無も毎日チェック、記録している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴時間帯は設定しているが、極力入居者様の意向を尊重し入浴をして頂いている。また入浴介助に関してはできる事はご自身で頂くように心がけている。 | 入浴時間帯は設定しているが、極力入居者様の意向を尊重し入浴をして頂いている。また入浴介助に関してはできる事はご自身で頂くように心がけている。 | 週4回、入浴の準備をしているが、利用者の希望や必要な場面では、その都度入浴を支援している。入浴を嫌がる利用者には時間を変え、タイミングを見て声掛けをしている。車いすを利用している方は1階のリフト浴を使い不安なく入浴を楽しんでもらっている。季節を感じてもらえるよう、ゆずや入浴剤などを使っている。 | |

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームにんじん・上野原

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|---|-------------------|
| | | | ユニット名(ピーチ) | ユニット名(柚子) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して持ちよく眠れるよう支援している | ユニット名(ピーチ) 一日のうち食事などの決まった時間以外は入居者様のペースで過ごして頂いている。人によっては昼寝をしたり、マイペースで寛いで頂いている。夜間眠りの浅い方に対しては、その様子をご家族に話した看護師とも相談の上、入眠導入剤を使用することもある。 | ユニット名(柚子) 一日のうち食事などの決まった時間以外は入居者様のペースで過ごして頂いている。人によっては昼寝をしたり、マイペースで寛いで頂いている。夜間眠りの浅い方に対しては、その様子をご家族に話した看護師とも相談の上、入眠導入剤を使用することもある。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者様の服薬については特に注意を払い、管理、服用して頂いている。一人ひとりの服薬についてもしっかりと飲み込めた事を確認するように努めている。また状況の変化があった際には看護師とも連携を取るようになっている。 | 入居者様の服薬については特に注意を払い、管理、服用して頂いている。一人ひとりの服薬についてもしっかりと飲み込めた事を確認するように努めている。また状況の変化があった際には看護師とも連携を取るようになっている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者様の趣味や嗜好の把握に努め、数人でゲームをしたり、できる方には洗濯物や清拭類をたたんで頂いている。また食事の準備や片付けなどをスタッフと一緒にしている。 | 入居者様の趣味や嗜好の把握に努め、数人でゲームをしたり、できる方には洗濯物や清拭類をたたんで頂いている。また食事の準備や片付けなどをスタッフと一緒にしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 地域のイベントやドライブ、外食などのレクリエーションを実施した。また天気の良い日には散歩も行っている。 | 地域のイベントやドライブ、外食などのレクリエーションを実施した。また天気の良い日には散歩も行っている。 | 外気浴を兼ねた散歩は日常的に行っている。季節ごとの外出やお墓参り、自宅地域の祭りなど個別の外出も家族の協力を得ながら支援している。写真が趣味という利用者には撮影ポイントまでドライブをして写真を撮ってもらうなど、その人の生活を豊かにする個別の外出支援も行っている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本的に施設ではお金がお預かりしていない。入居者様によってはご自身のお金で買物などをする事の支援を行っている。 | 基本的に施設ではお金がお預かりしていない。入居者様によってはご自身のお金で買物などをする事の支援を行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 基本的には家族とのやり取りは職員が行っているが、要望のある入居者様には電話など、家族とのやり取りができるよう支援している。 | 基本的には家族とのやり取りは職員が行っているが、要望のある入居者様には電話など、家族とのやり取りができるよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用スペースには温度計や湿度計を備え、環境には配慮している。 | 共用スペースには温度計や湿度計を備え、環境には配慮している。 | 共有部分には、家庭の雰囲気大切に、過剰な飾り避け、季節行事や誕生会などは、当日のみ飾りつけるよう配慮している。気温・湿度は常に気を使い、利用者が健康的で過ごしやすい環境に整備している。2ユニットのキッチン・リビングが続いているためパーティションを外して広い空間が確保しており、双方の利用者はいつも隔てなく交流している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用スペースにはTVやソファを配置。皆様が思い思いに過ごせるよう、配慮している。 | 共用スペースにはTVやソファを配置。皆様が思い思いに過ごせるよう、配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者様の居室には以前自宅で使用されていた家財道具等を可能な限り置いて頂く等、本人様が心地よく過ごされるよう努めている。 | 入居者様の居室には以前自宅で使用されていた家財道具等を可能な限り置いて頂く等、本人様が心地よく過ごされるよう努めている。 | 居室にはベッド、洗面台、クーラー、カーテンが備え付けである。室内のレイアウトは本人・家族の好みを優先し、本人が心安らぐ場所となるよう整えている。仏壇や家具、たんすなど馴染みの物が持ち込まれ、その人らしい居室づくりがしてある。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレや居室の位置がわかるよう名札等を付けている。また居室や廊下など、全面バリアフリーとなっており、入居者様の安全には充分配慮した建物になっている。 | トイレや居室の位置がわかるよう名札等を付けている。また居室や廊下など、全面バリアフリーとなっており、入居者様の安全には充分配慮した建物になっている。 | | |